

「慶長の大火縄銃」に関連して

メモ) 鉄本 (2022.06.12)

火縄銃コーナーに展示されている「慶長の大火縄銃」に関連して、よくある質問に答えるための参考データをまとめました。

1. 製作依頼者

当該火縄銃の直接の発注者は、彦根藩砲術責任者の宇津木治部右衛門

* 宇津木家は、小田原北条氏の下で稲富流砲術家であったが、天正18年(1590)に井伊直政の懇願によって井伊家に仕える。

「慶長の大火縄銃」の試作後、慶長14年(1649)～17年に同口径(50匁玉筒、口径33mm)の大火縄銃が稲富一夢によって93挺製作された。家康は、慶長18年には大鉄砲300挺を国友及び堺の鉄砲鍛冶に大量注文した。

2. 製作者

銃身部分＝国友鍛冶(銘文は「江州国友住重当甚左衛門作」とある)

からくり(機関)部＝堺出身の和歌山鍛冶(銘文は「摂州生国堺干時紀州和歌山住鎌倉屋藤兵衛作」とある) * 銃床部は不明

3. 「慶長の大火縄銃」のサイズに近い大鉄砲

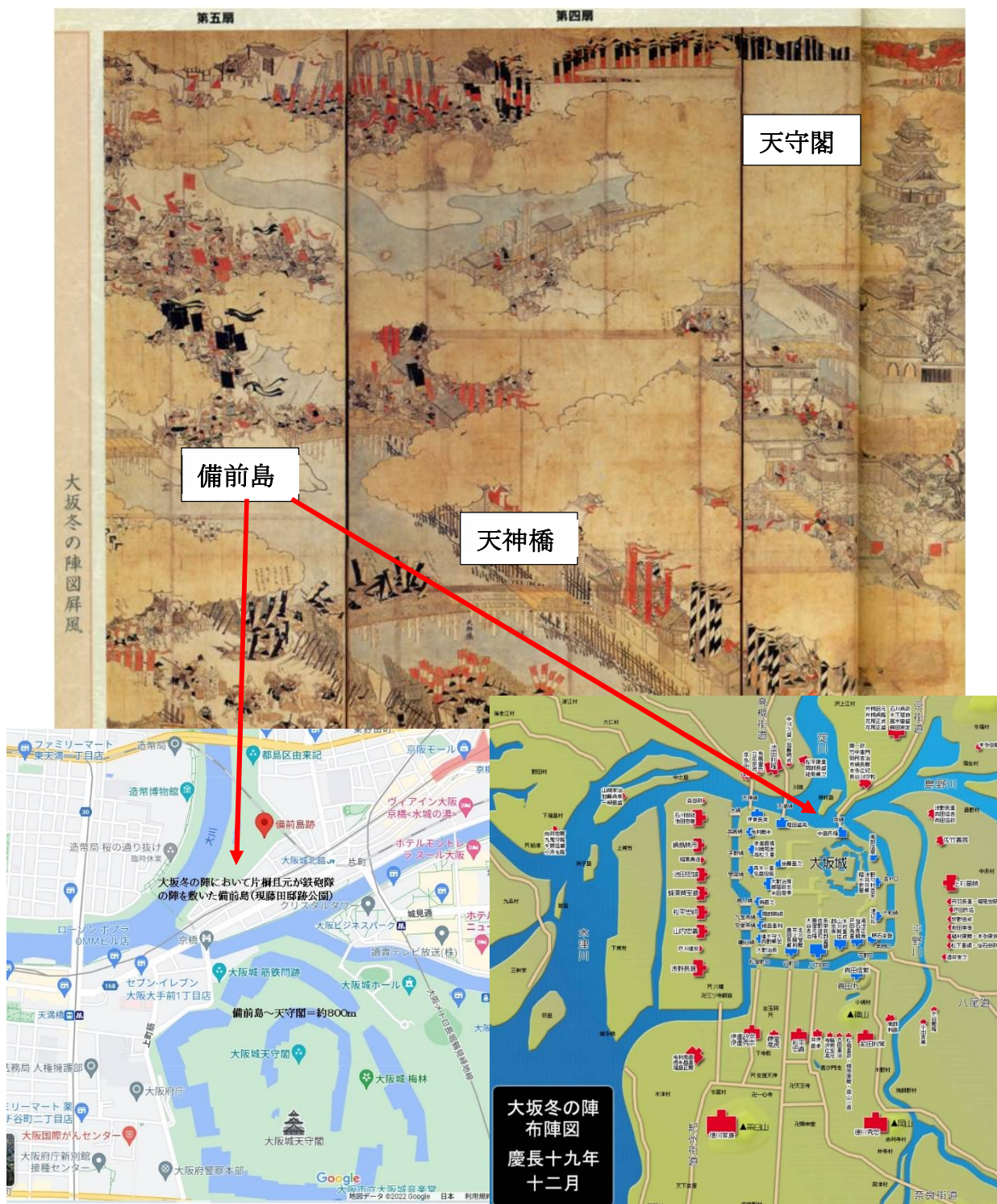
呼び名	全長	口径	製作時期	所蔵場所
慶長大火縄銃	300cm	33mm	1610年	堺市博物館
ゑんま王	278cm	22mm	1597年	大分県佐伯市毛利家
四かいなみ	282cm	25mm	1649年	同上 「大坂の陣」使用?
無聖	281cm	33mm	1649年	同上 同上
大てんぐ	206cm	19mm	17C 前半	大阪城 上記と同仕様
道元	107cm	40mm	1811年	松本城
百匁筒	100cm	40mm		新城市設楽原歴史資料館
大鉄砲	332cm	40mm	幕末	同上 管打ち式

4. 「大坂冬の陣」で使用された大砲類

- ① 大鉄砲(7～10尺) 俵の上に設置して砲撃。「冬の陣」では、片桐且元が大鉄砲300挺を大坂城天守閣から北に500mの位置にある備前島に陣立てし大坂城を砲撃した。この鉄砲隊には国友鉄砲鍛冶が従事した。
- ② フランキー砲 アジア製と日本製(豊臣方も保有していたが砲弾薬が欠乏)
- ③ 西洋砲(カルバリン砲、セイカー砲、デミカノン砲) 慶長19年～20年に、徳川方は西洋式大砲を39門(オランダから34門、イギリスから5門)輸入した。

5. 「大坂冬の陣」布陣図（備前島を中心に）

「大坂冬の陣図屏風」(左隻第五扇の一部)



【参考文献】 「鉄砲大砲大図鑑」洋泉社 2014

「堺市博物館研究報告」第32号(H25)～堺鍛冶による世界最大の火縄銃と大砲～ 吉田 豊

xn--u9j370humdba539qcybpym.jp

shinshiro.lg.jp